



つばさ

唐津市立北波多中学校

— 令和8年2月6日 —
第22号 文責 校長 渡辺 景輔

〒847-1201 唐津市北波多徳須恵 303
Tel 0955-64-2009

◇ 家庭でも情報モラル教育を(お願い) ◇

現在、SNS 上において中学生や高校生による暴力行為等の動画が投稿・拡散される事案が全国的に相次いでいます。このことについて、唐津市教育委員会から通知がきました。本校においても、本日、全校集会において、SNS 上への動画の投稿・拡散についての危険性や問題点等の話をを行い、注意喚起をしたところです。ご家庭でも情報モラルについて話し合いを持っていただき、子どもたちが、加害者にも被害者にもなることがないように、注意喚起をお願いします。

SNS 上における暴力行為等の動画の投稿・拡散を受けた緊急の対応等について (通知)

○情報モラル教育の実施 次の3項目について今年度中に必ず指導を行うこと。

1 「撮る・上げる」のリスク (加害性の認識)

悪ふざけや嫌がらせ、あるいは正義感からであっても、本人の許諾なく動画を投稿することは、肖像権侵害や名誉棄損、あるいは侮辱罪等の犯罪に該当し得ることを明確に指導すること。

2 「拡散する」のリスク

動画を安易に広める行為や動画にコメントやリアクションをする行為は、被害者の苦痛を拡大させる「加担行為」であり、拡散した本人も法的責任を追及される対象になり得ることを理解させること。

3 「デジタルタトゥー」の現実

一度拡散した情報は、将来の進学や就職、人間関係に一生消えない悪影響を及ぼす恐れがあることを、自分事として考えさせること。

全校集会の
パワポ資料より

- 1 「暴力行為」 いじめで終わらない = 犯罪
- 2 「撮る・上げる」も 犯罪となり得る
- 3 「拡散する」 = 加担行為 = 犯罪となり得る
- 4 ネットにアップすると一生消えない
- 5 軽はずみな行動で
学校全体の信頼が失われる

いじめられてるかも? 「やはた」行動を!

「や」…「やめて」と
冷静に伝える。

「は」…すぐにその場を「はなれて」
安全な場所へ移動する。

「た」…信頼できる大人に
「たすけ」を求める。

いじめや暴力行為などを見たら (知ったら)

- ・とめられる人になってくれたら
- ・大人に伝えられる人になってくれたら
- ・傍観者 (見て見ぬふりをする人)
だけにはなってほしくない。

北波多中学校で暴力行為・いじめ等を
しない、させない、許さない。

もし、すでに動画を持っていたり、
拡散したりした人は、必ず先生に相談を
すること。

◇ 佐賀県立高校の特別選抜が実施されました ◇

2月3日（火）に、佐賀県立高校の全日制において、特別選抜が実施されました。県立高校においては、すべての学校において面接が実施されます。今回受検した生徒たちも何度も面接練習を重ね、特別選抜に臨みました。しかし、受検後の子どもたちの感想を読んでも、思うように答えられなかった生徒たちが多くいました。面接は誰もが緊張するものですが、少しでも自信をもって答えることができるよう、日頃から目的意識をもって学校生活を送ってほしいと思います。また、1・2年生の皆さんも、下に面接の質問事項をのせていますので、自分だったらどう答えるかを考えてみてください。普段の生活の中で、自然にあいさつができたたり、きちんとした言葉遣いをしたり…と意識することが大切です。

<面接で必ず聞かれること>

- ・志望動機（なぜ、その高校・学科を選んだのか？）

<中学校生活・自分自身のこと>

- ・中学校生活の中で、一番頑張ったことは。
- ・中学校生活で、一番の思い出は。
- ・日常生活で心掛けていることは。
- ・今までに何を一番努力してきたか。
- ・集団生活で大切なことは何か。

<高校生活について>

- ・本校のどこに魅力を感じたか。
- ・高校生活で頑張りたいことは。
- ・高校卒業後の進路は。
- ・高校に入学して何の学習が楽しみか。
- ・勉強と部活を両立するために必要なことは。
- ・将来どのような職業に就きたいか。

私は、受検をして、とても緊張しました。試験会場では、誰も話をしていなかったし、とても静かでした。次回は面接対策をもっとしたいです。

面接では、練習の倍以上緊張してしまい、質問された内容に対して、しっかり答えられているか心配だった。次は冷静に質問を聞き、質問に答えたい。

◇ 「手話講座」を実施しました ◇

1月26日（月）に、1年生において「手話講座」を実施しました。当日は、聴覚障がい者・ろう講師の [] 先生、佐賀県・唐津市登録の手話通訳者の [] 先生をお招きして、手話でのあいさつの仕方や自己紹介の仕方などを教えていただきました。

最初は、子どもたちも緊張気味でしたが、 [] 先生の手話と笑顔、そして [] 先生の息の合った通訳で積極的に手話の実践に取り組んでいました。

講話を通して子どもたちには、「手話は見えることば」であること、「聴覚障がい者の方々は、相手の表情や口の動きからもことばを読み取る」ということを教えていただきました。これから誰もが生きやすい世の中にしていくために、自分には何ができるのかを考える良い時間となりました。

